



天を造り出し、
これを引き延べ、
地とその産物を押し広め、
その上の民に息を与え、
この上を歩む者に
霊を授けた創造主は
こう仰せられる。

わたし、主は、
義をもってあなたを召し、
あなたの手を握り、
あなたを見守り、
あなたを民の契約とし、
国々の光とする。

イザヤ四十二章5、6節

**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。
いのちの泉はこれからわく。 箴言 4:23**



あなたの心を見守れ

— 創世記の出来事と平安を保つ秘訣 —

ジェネシスジャパン会長 宇佐神 実

心を動かすもの

感動。私たちは創造主や人のすばらしいわざを見たり聞いたりする時に感動を覚えます。出エジプトをした民は創造主の恵みに感動し、幕屋建設のために自分にできる精一杯を喜んでささげました。キリストの救いの恵みに感動した歴代のクリスチャンたちは、殉教を覚悟で福音を伝え続けました。

感動は感情があってこそ出てくるすばらしいものです。創造主は私たちに動物とは違う豊かな感情

を備えてくださいました。そして私たちが感情を正しく用いるための方法も聖書は教えています。それは、サタンにとって感情は私たちを誘惑する最も有効な手段でもあるからです。

聖書は、私たちに「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく。」と教えています。あなたは、あなたの心が何に支配されることを望むのでしょうか。創造主と隣人への愛、そして聖書の教えでしょうか。それとも自分の感情でしょうか。

墮落前の人の状態

墮落前のアダムとエバは、日々創造主とコミュニケーションがあり、愛で結ばれ、することなすことが喜びで満たされていました。黙示録 21 章には、創造主のかたちを完全に取り戻した人々が、創造主と共に住む世界の様子が記されています。人は、死ぬことも、悲しむことも、嘆き叫ぶことも、苦しむこともありません。また、1 コリント 13 章から推察できる墮落前の人は、愛に基づいて考え

行動し、寛容で、親切で、人をねたまず、自慢せず、高慢にならず、礼儀正しく、利己的でなく、怒らず、人を悪く思うことがなく、真理を喜び、すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍ぶとあります。

こうした聖書箇所を通して、創造された当初の罪のない人のありさまを知ることができます。そこから、罪が人々にどんな影響をもたらしてしまったのかを知ることができます。

最初の罪

サタンはエバの心に働きかけ、ことば巧みに創造主への不信感を植え付けることに成功しました。まず、善悪の知識の木の実を食べても決して死なないと保証し、創造主のことばを全否定しました。さらにその実を食べると創造主のようになれると嘘をつきました。エバの心はサタンの揺さぶりに負け、その木の実を食べたいという気持ちがどんどん膨らんでいきました。ついにエバはその感情を抑えきれなくなり、その実を取って食べ、夫のアダムにも与えたのです。これが人類最初の罪です。

この時以降、すべての人は罪の性質をもつようになりました。ここで問題なのは、信じるべき存在を他者のことばによって疑ったことです。みなさんはそのような経験はないでしょうか。

聖書に反する人のことば、この世の教えは、一見正しく見え、私

たちを誘惑することが多々あります。しかし私たちは、誰を信頼すべきかを決めておかなければなりません。創造主や信頼すべき人を疑う時、関係が破壊され、苦しみもたらされるからです。「人のした悪を思わず (1 コリント 13:5)」とあるように、創造主のわざや信頼すべき人の言動を善意で理解しようとする時、私たちの心は平安が保たれるのです。



カインの罪

創世記4章では、カインとアベルが創造主にささげ物をしていました。聖書に直接は記されていませんが、アダムも定期的に罪の身代わりのいけにえをささげていたことでしょう。これは、最初の罪の後、動物（おそらく羊）が殺されて皮の衣が造られ、アダムとエバが覆われたことから始まり、身代わりの血が流されることでいのちが贖われることを象徴していたと考えられます。

カインとアベルが一家をなした時、それぞれがささげ物をささげました。しかしカインのささげ物は受け入れられず、カインは怒っ

て顔を伏せました。なぜ受け入れられなかったのでしょうか。カインは創造主の方法ではなく、自分の方法でささげたからでした。

創造主は、カインが抱いた憤りをコントロールすることで罪に支配されないように諭します。カインは創造主の前に自分を低くし、自分の罪を悔い怒りを鎮め、創造主の方法でささげ物をすればよかったです。ここに創造主の方法が記されています。感情に自分の心の支配を委ねず、創造主の前に自分を低くして自分の行動を検討し、悔い改め、主の喜ばれる方法を模索することです。

残念ながらカインは創造主のことばに耳を貸さず、怒りの感情を膨らませ、それを罪に支配させてしまいました。そして人類史上最初の殺人をしてしまったのです。

「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。(ヤコブ 1:14～15)」

ノアの歩み

創世記6～9章には、ノアが登場します。創造主のノアに対する評価は次のようです。

「しかし、ノアだけは違った。彼は主の御心になつていた。…ノアはその時代の人々の中にあつて、彼らの悪に染まらず、創造主のみ心に向けて生きていた。ノアはいつも創造主と共に生活していた。(創造主訳聖書、創世記

6:8～9)」

ノアの時代は、今日同様、創造主に心に向けて生きるのが最も困難な時代だったといえるでしょう。人々は創造主を認めず、人間中心の生き方を良しとしていました。それだけではなく、ノアが箱船を造り始めたことで、多くの人が彼を嘲笑したことでしよう。しかしノアの心はそのような揺さぶりに屈することはありませんでした。なぜなら、ノアの心は創造主だけに向いていたからです。

大洪水が起こった時、ノアとその家族は箱船に乗らなかった親類縁者や友人知人の死を目の当たりにしました。彼らはこのことを嘆き悲しんだことでしょう。しかしそのような悲痛な出来事の中で心の平安を保つことができたのは、ノアが創造主のみ心に向けて生きていたからでしょう。彼は創造主に絶対的信頼を寄せ、何が起ころうと創造主の方法に従うことがベストだとよく理解していました。彼は感情に支配を許して罪を犯さず、創造主の支配にすべてを委ねた良い模範です。

心を何に支配させるか

クリスチャン心理学者のウィザーメインはこう述べています。

私たちの行動は、私たちが感情に支配されることを選ぶ時のみ、感情に支配される。私たちが意図的に感情に反する行動

を選ぶ時、しばしば驚かされるべきことだが、私たちの感情も変えられていることに後で気づかされる。私たちが創造主の前にへりくだり服従することを通してのみ、私たちは私たちの感情をコントロールでき、互いの人格と平和を共有できるのである。¹

聖書は、私たちに心を力の限り見張り、見守れと命じています。それは私たちの心を、感情に支配

させるのではなく、へりくだらせて創造主の教えに従うことです。たとえ世の考えや信頼する友人知人の助言に反したとしても、聖書の教えに従うことの大切さを考えさせられます。ノアのように常に主に心に向けて、主に喜ばれる人生を志したいものです。

参考文献・引用文献
1.2. Wither-Mayne, C. "The way we are - psychology and Genesis" *Creation, Creation Ministries International*. March, 1990. pp.41-45. <<http://creation.com/psychology-and-genesis>>

心理学への進化論の影響

宇佐神実

人々は常に物事の納得のいく理解を探し求めています。そのような中、ダーウィンの進化論が浸透して以降、多くの人が創造主の存在を除外した説明を追い求めるようになりました。これは自然科学に留まらず、社会学から美術や音楽まであらゆる分野が含まれ、心理学も例外ではありません。

精神分析学の創始者のフロイトも、進化論の影響を強く受け、人間を皮むけば本能に従って衝動的に動く動物に過ぎないと考えました。また行動主義心理学を始めたワトソンも、進化論に基づいて、人の心理は動物の行動で研究し把握できると考えました。これらの心理学は現代人の思考や行動に多大な影響を与えています。

聖書は、創造主を無視して生きる人々の状況を記しています。

「また彼らは、創造主を認めようとしたがらなかったため、創造主は彼らを墮落した思いに引き渡し、そのため、彼らはしてはならない悪事をするようになった。彼らは、あらゆる不正と悪と貪欲と悪意に満ち、ねたみと殺意と争いと詐欺と悪念にあふれ、人の悪口を言う者、そしる者、創造主を憎

む者、高慢な者、尊大な者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、分別の無い者、不誠実な者、情け知らずの者、慈悲の無い者となった。彼らは、こうしたことを行なう者たちが死に当たるという創造主の定めをよく知っていたながら、自らそれを行なっているばかりでなく、それを行なう者たちに、心から同意させしているのである。(創造主訳聖書ローマ 1:28-32)」

世の中の心理学についてウィザーメインはこう述べています。「心理学は、自然科学同様、あらゆる知見の説明を聖書以外の物事に求めようとする。しかし、この世界の造り主であり救い主である創造主を認識することがなければ、心理学は人々の人生に意味ある変革をもたらす能力を大幅に失ってしまう。聖書は、人について、人の抱える問題について、そしてその解決について多くを語っている。」²

私たちは創造主を認め、創造主の前にへりくだって、意味ある変革を体験しながら生きていくではありませんか。

ビジョンの人、天に凱旋



日本の創造論の働きを支えてきた堀越暢治師が、去る8月30日に天に召されました。ご家族の方々、創愛キリスト教会の方々にご心より哀悼の意を表します。

9月2日にもたれた告別式では、主任牧師の宮崎聖師から、堀越師がビジョンに生きた人であったことが力強く語られました。創造主訳聖書も堀越師のビジョンに始まり、それに動かされた人々の協力で完成しました。主にあってビジョンをもって働きを進めていくことの大切さを、改めて教えられました。

やがて天で堀越師に会う時、「よくがんばったな！」と共に言っていただきたいですね。これからも日本に創造を信じ、救いを信じる人が多く起こされるため、共に祈りつつ主に仕えていきましょう。(宇佐神実)

「創造を伝える働き人養成講座」@ 軽井沢

創造を伝えることは福音を伝えること!

東京キリスト伝道館教員
小式澤 祥

「これは創造を伝える働き人養成講座ならぬ、福音を伝える働き人養成講座だ!」今回3日間の講座に参加してそう思いました。

参加者の一人が、こう言ってい

ました。「創造なくして、福音は語れない。なぜなら、『何からの救いか』は創造と罪による堕落なくして理解できないからだ。」

わたしはその言葉をきいて「本当にそうだ」と思いました。養成講座の中では繰り返しそのことが教えられていました。実は神を信じていない人以上に、クリスチャンがまずこのことに気づいていないのではないのでしょうか。

罪からの救いは強調しても、そもそも何が罪なのか。これは遑って考えなければ当然わからないはずです。救いを理解するには罪を理解する必要があり、罪を理解するには神の創造を理解する必要があります。福音の全体像を掌握し、神の恵みをより深く知っていくために、ぜひクリスチャンであるあなたにもこの養成講座に参加していただきたいと願ってやみません。

講座・イベント案内

■創造を伝える働き人養成講座 講師：宇佐神実

第10回 2017/11/23(木)～25(土)
@シオン錦秋湖(岩手県)

第11回 2018/1/22(月)～24(水)
@勝浦(千葉県)

第12回 2018/2/13(火)～15(木)
@足摺岬(高知県)

■ジェネシスジャパン 秋の創造セミナー

2017/10/11(水)～13(金)
@長野県 ホテルグリーンプラザ白馬
講師：宇佐神正海・宇佐神実・山本哲也

■ジェネシスジャパン 春の青少年向け創造セミナー

2018/3/26(月)～28(水)
@軽井沢リトリートセンター
講師：宇佐神実・山本哲也・加藤義人

詳細のお問い合わせ・お申し込み・
セミナーや講演のご依頼は、
ジェネシスジャパンまで